

東日本大震災対策委員会被災地域の復興グランド・デザイン分科会(第1回)及び
エネルギー政策の選択肢分科会(第1回)合同会議 議事要旨

1. 日時: 平成23年4月20日(水) 9:00~10:00

2. 場所: 日本学術会議 5-C(1)・(2)会議室

3. 出席者:

日本学術会議: 金澤会長、広渡副会長、大垣副会長

被災地域の復興グランド・デザイン分科会(敬称省略):

淡路剛久、江原由美子、今井浩三、武田和義、西澤直子、石川幹子、進士
五十八、濱田政則、大西隆

エネルギー政策の選択肢分科会(敬称省略):

今田高俊、馬越佑吉、海部宣男、北澤宏一、笠木伸英、西尾章治朗、矢川
元基、松村敏弘

事務局: 齋藤事務局長、石原、瀬高、中島他

4. 資料:

資料1 東日本大震災対策委員会 運営要綱(幹事会決定)

資料2 東日本大震災対策委員会分科会 委員名簿

参考1 日本学術会議東日本大震災対策委員会緊急提言(一式)

参考2 浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数(地図情報)(内閣
府統計局(4月17日時点の資料))

参考3 エネルギー政策の選択肢委員会資料(2011.4.20. 北澤 宏一)
(4月17日)時点の資料

5. 議事

(1) 分科会の設置理由説明

金澤会長から、以下のような分科会の設置理由が紹介された。

○被害地の復興及び日本全体の復興について、両分科会で同じ思想の下で審議を進めて欲しい。

○政府の東日本大震災復興構想会議と、パイプをもっていただきたい。

○今まで日本学術会議が出してきた緊急提言等にも色々なキーワードはでてきており、また、会員、連携会員等の意見もあるので参考にしてほしい。

○緊急を要する課題であり、6月中には中間報告を発して欲しい。

(2) 委員長の指名等

金澤会長から、平時ではないので、委員長を指名する旨説明があり、両分科会から承された。その上で、

○被災地域の復興グランド・デザイン分科会の委員長として 進士五十八委員を、

○エネルギー政策の選択肢分科会の委員長として 北澤宏一委員を
を指名し、両分科会から了承された。

また、日本学術会議執行部との連携を強化するため
○被災地域の復興グランド・デザイン分科会のサポーターとして 広渡副会長が、
○エネルギー政策の選択肢分科会のサポーターとして 大垣副会長が
就くことが紹介された。

(3) 意見交換

以下のような意見が出された。また、エネルギー政策の選択肢分科会北澤委員長から、
参考3に基づく説明が行われた。

1) 共通事項

- 政府との連携について、日本学術会議が目指すものと、政府の委員会との立ち位置を
明確にすべきではないか。日本学術会議なので長期的視点は当然だが、この課題は
ただ提言するだけでは許されないと考える。
- 現時点で、双方の立ち位置の違いを明確にする必要はないのではないかと。互いにポジ
ティブな提言を行うことは、被災地等にとり有益である。
- 大きな原則で良いので、学術的な見地からのポイントを、10でも出すことが重要。
- 大学、学協会が、それぞれの行動しているが、全体像の集約がなされていないので、
日本学術会議でそのようなことができれば望ましい。

2) 被災地域の復興グランド・デザイン分科会関係

- 分科会名の中の「グランド・デザイン」について、共通のコンセプトを打ち出すという意味
ならわかるが、地域の特性もあり、意味が伝わりにくいのではないかと。
- 被災地域だけでなく、国全体のあり方、全体像を作ること、新しい時代を築くための基
盤を示すことがグランド・デザインではないかと。
- 既に県レベルでは、地域の要望を踏まえ、早々に復興計画を検討している。6月中とい
うのでは、遅いのではないかと。
- 日本学術会議は学術の知見がある。例えば、歴史的な土地利用のデータなどを活用
し、現段階でこれだけは地域の復興計画に反映させるべきものを、5月中には出すべ
きである。
- 工学的発想、生物学的発想等を持ち寄り、制度設計していく必要がある。

3) エネルギー政策の選択肢分科会関係

- 原子力発電のあり方について原子力発電所の地域住民や国民の合意形成をどうする
のかという議論を踏まえて、選択肢の議論があるのではないかと。
- 科学の視点で公正な判断を行うことが重要である。
- 復興構想会議では、福島原子力発電所による災害が進行中であり、復興段階に至っ
ていないため、津波災害からの復興が中心となる。
- エネルギーの需給問題は、日本の中だけで閉じられる問題ではなく、世界的な視点で
検討すべき。